

京都精華大学教育後援会 2025 年度第 4 回役員会 議事録

開催日時：2026 年 3 月 20 日（金）13 時 30 分～14 時 26 分

開催場所：本館 4 階 H-417

役員出席者：

（会長）兒玉 修一、（副会長）椋本 千鶴子、（監事）篠崎 聡、（以下、学部幹事）佐々木 潤子、小野 佳代、高橋 安以子、張 暁華、内屋敷 敦

役員欠席者：

（会計）小林 江美子、（監事）松本 高志、（学部幹事）高木 隆次、小栗 幹大、甲谷 優枝、迫田 真紀子

本学出席者：

（学長・教育後援会顧問）澤田 昌人、（副学長）森原 規行、三河かおり、（教務部長）吉岡 恵美子、（学生部長）田村 有香、（教学グループ長）下田 啓真、（学生グループ長）山元 英昌、（経営企画グループ長）飯澤 ちあき、（経営企画グループ）加藤 由佳、若林 麻由佳

記録：

（経営企画グループ）若林 麻由佳

報告事項

1. 2025 年度活動総括

事務局から、資料に基づき、2025 年度の活動について、報告があった。

役員から、教育懇談会に参加した際、担当教員が親身に対応してくださり、子どもの大学生活への理解が深まったことから、より多くの学費支弁者に参加していただけるよう、情報発信を行っていただきたい、と意見があった。

2. 2025 年度役員退任者

事務局から、資料に基づき、2025 年度の役員数および、2026 年 3 月 31 日の退任者について報告があった。

議事事項

1. 2026 年度役員体制案

事務局から、資料に基づき、2026 年度の教育後援会役員会の体制について提案があり、審議の結果、役員就任継続となる現役員 7 名に加え、4 月に新入生の学費支弁者から新役員を募集することが承認された。

2. 2026 年度活動案

事務局から、資料に基づき、2026 年度の教育後援会活動（役員会、総会、教育懇談会、懇親事業）について提案があり、審議の結果、承認された。

3. 2026 年度寄付事業案

事務局から、資料に基づき、2026 年度寄付事業案について提案があった。また、「食環境の充実」に係る支援に関する企画案については、補助対象の 1 つである冷凍食品自動販売機が悠々館に設置される予定である一方、厳密に購入対象者を学生に限定することが難しいという課題がある、と説明があった。審議の結果、以下の内容を原案として、2026 年度、第 1 回役員会に提案されることが承認された。

• 奨学金の充実	5,000,000 円
• キャリア支援活動への賛助	2,000,000 円
• 学内環境の整備支援	10,000,000 円
• 食環境の充実	6,020,000 円
• 入学記念品	1,440,000 円
合計	24,460,000 円

役員から、冷凍食品自動販売機を設置することで電子レンジが混雑するのではないか、と質問があった。

澤田学長から、現在、愛智館に設置している冷凍食品自動販売機の横に、業務用の電子レンジを 2 台設置しており、混雑している様子は見られない。また、自販機の近くにテーブルや椅子も完備されている、と回答があった。

役員から、2025 年度寄付金に比べて 2026 年度寄付金の予算額が増額している経緯について、質問があった。

事務局から、「食環境の充実」において、2026 年度より学生応援カレーに加え、冷凍食品自動販売機の学生割引の開始を検討したいと考えるため、寄付金額が増額している。また、繰越金に一定の余裕があることから、今後の事業充実のために活用していきたい、と回答があった。

役員から、近年は支出額が収入額を上回ることがなく、繰越金が年々増加している中で、300 万円程度の増額であれば問題ないのではないか、と意見があった。

事務局から、2025 年度入学生までは入学時に 4 年分の会費を納入いただいていたが、教育後援会会則の変更により、2026 年度入学生からは毎年度 1 年分の会費を納入いただくこととなるため、今後 3 年間は収入が一時的に減少する見込みである。その一方で、繰越金に一定の余裕があるため、運営上大きな支障はなく、各年度における大学の事業内容を踏まえて寄付事業の内容や金額を提案している、と説明があった。

役員から、キャリア支援活動への賛助の対象である「本学オリジナル就活手帳」はどのような内容なのか。デジタル化が進む中で、手書きの手帳が実際に使用されるのか、と質問があった。

山元グループ長から、手帳には、スケジュール欄に加え、就職活動に必要な情報およびポートフォ

リオの作成時期等が掲載されており、実際に学生が使用している様子を見かけることもある、と回答があった。

その他

役員から、役員間の連絡や教育後援会に関する意見交換のため、過去に役員間のメーリングリストを運用していたが、活発な意見交換には至らなかったことから、次年度以降は、より利便性の高いLINEのオープンチャット等の活用を検討してはどうか、と意見があった。

事務局から、次年度の役員と検討する、と回答があった。

1. 2025年度寄付事業実績

兒玉会長から澤田学長に、2025年度寄付金の目録が贈呈された。

全議事の終了が宣告された。

以上